

論文・詳細抄録の書き方（基礎研究編）チェックリスト

このチェックリストは「論文・詳細抄録の書き方（基礎研究編）」をもとに、論文を実際に執筆する際の助けとなるよう制作したものである。論文を作成する際に、研究論文としての要件を満たしているかを確認するのに活用して頂けると幸いである。

1 背景と目的

【チェックリスト①「背景」】

研究の背景について、先行研究や自分のこれまでの研究を参照しながら、以下の項目を読者に分かるように説明する。

- どのような問題に取り組もうとしているのか。

- その問題を解くことの意義は何か。

- その問題についてこれまでにどんなことが解明されているのか（先行研究を引用して述べる）。

- これまでの研究で未解決なこと、または不十分なことは何か。

- 上で挙げた問題を解決するためにはどんなことが必要か。

【チェックリスト②「目的」】

研究の目的について、背景を受けて以下の項目を説明する。

- 今回の研究では、具体的にどんな問題の解決を試みるのか。

- その具体的な問題を解くことの意義は何か。

- 今回の研究のどこに新規性があるのか。

- 今回の研究の到達目標は何か（できる限り、数値または客観的な指標で記述する）。

2 方 法

【チェックリスト③「方法」】

研究で用いた方法について、以下に注意しながら説明する。

- 実験や調査に使用した機器やソフトウェア、あるいは分析対象のデータの取得方法について、順序立てて説明したか。
- 実験や調査について、読者が追試験または妥当性を確認するのに必要な情報を記述したか。
- 結果の分析や統計解析の手法を明確に記述したか。
- 「結果」や「考察」に書くべき事項が紛れ込んでいないか。

必要に応じて以下の項目について説明する。

- 実験や調査に特殊な機器を使用した場合は、その概要。

- 実験や調査に特殊なソフトウェアを使用した場合は、その概要。

- 特殊な実験を行った場合は、実験のプロトコール。

- 統計学的な解析を行った場合は、使用した手法とソフトウェア。

- 特殊な解析を行った場合は、使用した手法とソフトウェア。

3 結 果

【チェックリスト④「結果」】

得られた結果について、以下に注意しながら説明する。

- 目的で設定した到達目標について、信頼できる数値で結果を記述する。

- 図表は、読者が理解しやすいよう最善の形式を選択したか。
- 図表には必要なすべての情報が記載されており、理解不能な部分はないか。
- 本文・図表中で数値で結果を述べる際は単位を明示したか。
- 統計学的な解析結果を提示する際は、国際的に推奨されている形式に則ったか。
- 「方法」で説明した順序と「結果」の提示順序に齟齬はないか。
- 結果を述べる際に、主観的なあるいは曖昧な意味の形容詞や副詞を使っていないか。
- 「方法」や「考察」に書くべき事項が紛れ込んでいないか。

4 考 察

【チェックリスト⑤「考察」】

「結果」を参照し、以下の項目と注意事項に気を配りながら考察を進める。

- 今回の研究の結果の中で検討を要する項目を挙げる。

- 上記について、客観的な数値や過去の信頼できる先行研究の結果に基づいて議論する。

- 結果はどのような場合に適用できるかを明示する（この研究の一般性）。

- 結果はどのような場合には適用できないかを明示する（この研究の限界）。

- 次に検討すべき残課題（または今後の展望）を述べる。

- 「方法」や「結果」に書くべき事項が紛れ込んでいないか。

5 結 語

【チェックリスト⑥「結語」】

- 研究の背景・目的と方法を簡潔にまとめたか。
- この研究で明らかになった新たな知見を簡潔にまとめたか。

6 謝 辞

【チェックリスト⑦：「謝辞」】

- 謝辞が必要な個人や団体に漏れなく言及したか。
- 財政的援助を受けた研究費等に言及したか。

7 文 献

【チェックリスト⑧「文献」】

- 関連する先行研究を十分に検索したか。
- 文献は2次資料でなく1次資料を参照したか。
- 文献の記述書式は投稿する学術誌の指定に合っているか。

8 校 閲

【チェックリスト⑨「校閲」】

- 読者や査読者が理解できるよう分かりやすく記述してあるかを確認するために、自分以外の誰かに読んでもらったか。
- 共著者全員に内容の確認をしてもらったか。
- 指導者またはそれに相当する人に校閲をしてもらったか。
- 英文抄録は **native check** に相当する校閲を行ったか。

9 論文全体

【チェックリスト⑩「論文全体」】

- 論文全体を、以下の標準的な章立てに沿って構造化したか。
(1) 背景と目的、(2) 方法、(3) 結果、(4) 考察、(5) 結語
- 各章がそれぞれの要件を満たしているか、確認したか。
- 校閲をしてもらった人に研究の内容が伝わったか。

制作

日本医療情報学会 教育委員会
(日本医療情報学会編集委員会の協力による)

執筆者

鶴田 陽和 (東京都健康長寿医療センター研究所)
奥原 義保 (高知大学医学部附属医学情報センター)
津久間 秀彦 (広島大学病院医療情報部)

改訂履歴

2016/05/31 基礎研究編の「チェックリスト」を公開
2018/07/05 基礎研究編の「チェックリスト」を改訂